

コニカミノルタグループ 2005年3月期 中間決算説明会

2004年 11月 12日

コニカミノルタホールディングス株式会社

● 本資料の記載情報

- ・ 本資料の前年度実績については旧コニカと旧ミノルタの合算値を使用しております。
- ・ 本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。

● 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料で記載されている業績予想、将来予想は現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。

第一部

2005年3月期中間決算概要と 通期業績予想

常務執行役 本藤 正則

コニカミノルタグループ決算概要



	【億円】				
	a 04/9 実績	b 03/9 実績	a/b 伸長率	c 前回予想 5月21日	a/c 達成率
売上高	5,351	5,416	98.8%	5,500	97.3%
売上総利益	2,346	2,431	96.5%	-	-
営業利益	325	400	81.3%	335	97.1%
経常利益	282	284	99.0%	260	108.3%
税前利益	232	249	93.4%	-	-
中間純利益	82	152	53.9%	95	86.3%
EPS	15.44円				
ROE(年間)	4.84%				
P / L為替レート(円)			増減		差異
US \$	109.86	118.04	-8.18	105.00	4.86
ユーロ	133.32	133.46	-0.14	127.00	6.32
			(円高)		(円安)

決算要約

業績概況

前年と比較すると減収減益であるが、統合に関する要因や為替の影響を除いた実質ベースでは前年並みの売上高と営業利益を確保。一方、計画比ではカメラ事業の損益悪化を情報機器事業で補ったが、2Qにおいてデジタル家電が在庫調整に入った影響でオプト事業が売上・利益共に未達となり、グループ業績は伸び悩んだ。

ポイント

- 情報機器 : 販売好調なカラーMFP・カラーLBPを中心に事業全体では堅調に推移。
- オプト : 光ピックアップレンズ、デジタルカメラ用(DSC)レンズが2Qで生産調整の為に伸び悩んだが、液晶用ディスプレイ用フィルムの伸張により対前年増収増益。
- フォトイメージング : DSCの急速な価格下落により損益が悪化。
機種を絞り在庫の適正化に努めると同時にカメラ事業の構造改革に着手
- 法人税 : フォトイメージング事業で赤字を計上した事により、税効果をみる事が出来ず法人税が増加。(前期実効税率:38% 今期:65%)
05年度からは連結納税制度の導入により、大半は解消される見込み。

統合関連

関係会社のITも順次統合が進み、同時に人員削減も順調に進む。
海外の情報機器の拠点集約は倉庫関連は上期で完了、販社関連は下期より開始。

セグメント別 売上高・営業利益



	売上高					営業利益				
	04/9 実績	03/9 実績	伸長率	前回予想 5月21日	達成率	04/9 実績	03/9 実績	伸長率	前回予想 5月21日	達成率
情報機器	2,814	2,983	94.3%	2,850	98.7%	267	295	90.5%	240	111.4%
オプト	440	392	112.3%	450	97.8%	72	65	110.6%	85	84.7%
フォトイメージング	1,428	1,378	103.6%	1,500	95.2%	40	18	-	15	-
メディカル&グラフィック	609	588	103.7%	650	93.7%	43	47	92.3%	35	123.2%
計測	26	49	-	50	-	9	10	-	10	-
HD他	33	26	-	0	-	26	34	-	20	-
グループ計	5,351	5,416	98.8%	5,500	97.3%	325	400	81.3%	335	97.1%

今年度よりセグメントの集計区分を変更、よって計測機器事業の03/9実績値を今年度読み替える
と売上高:26億 営業利益:8億となる

セグメント別 特殊要因



KONICA MINOLTA

売上高	【億円】						
	04/9実績	03/9実績	a 増減	b 為替影響	c 決算期変更	d 両社取引	a-(b+c+d) 実質増減
情報機器	2,814	2,983	169	82	0	125	38
オプト	440	392	48	6	0	0	54
フォトイメージング	1,428	1,378	50	32	138	0	56
メディカル&グラフィック	609	588	21	13	0	0	34
計測	26	49	23	0	0	0	23
HD他	33	26	7	0	0	0	7
計	5,351	5,416	65	133	138	125	55

営業利益	【億円】						
	04/9実績	03/9実績	a 増減	b 為替影響	c 統合費用	d 暖簾代	a-(b+c+d) 実質増減
情報機器	267	295	28	11	14	21	17
オプト	72	65	7	5	3	1	16
フォトイメージング	40	18	58	9	3	1	45
メディカル&グラフィック	43	47	4	4	0	0	1
計測	9	10	1	0	0	1	0
HD他	26	34	9	0	2	0	11
計	325	400	75	29	21	24	0

1円の変動に対する営業利益への影響額 (年間)

US \$ 約 7億

EURO 約 11億

販売費・一般管理費の増減

【億円】

	04/9 実績	03/9 実績	増減
	2,021	2,031	10
販売費	439	421	18
人件費	767	825	57
研究開発費	323	303	20
暖簾代償却	30	3	26
その他	462	479	17

製造も含めた総人件費の対前年増減は 67億

販売費・一般管理費における為替影響額は27億(実質17億円の増)

営業外収支増減

	【億円】		
	04/9 実績	03/9 実績	増減
	44	116	72
受取利息・配当金	7	7	0
為替差益	29	0	29
その他	39	58	20
営業外収益計	75	66	9
支払利息・社債利息	28	42	14
棚卸資産処分損	25	38	12
為替差損	0	30	30
その他	65	71	6
営業外費用計	119	181	63

事業概況 (情報機器)

事業概況

販売好調なカラーMFP・カラーLBPを中心に事業全体では堅調に推移。

MFP事業

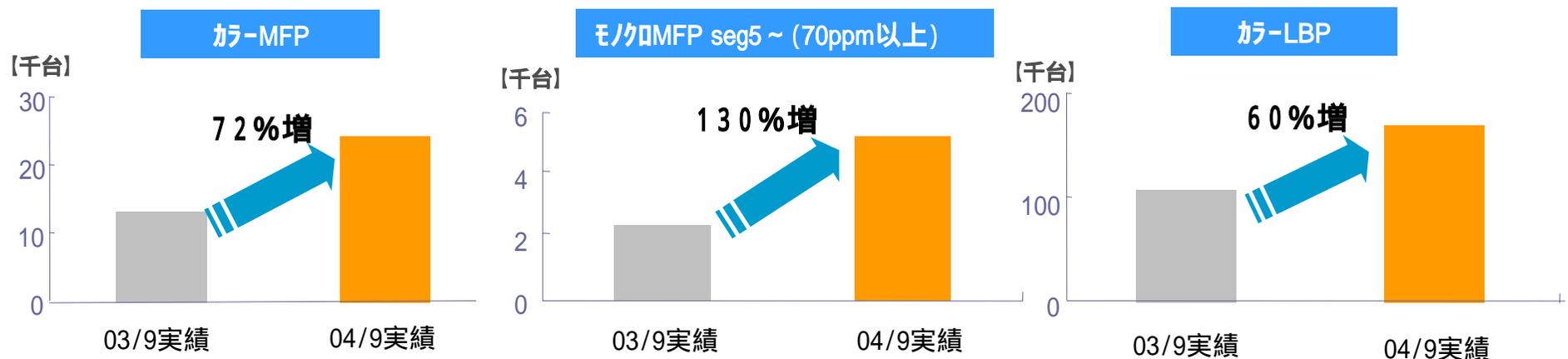
カラーMFPは新製品「bizhub C350」の販売好調が寄与し、前年比大幅増。

モノクロMFPは高速領域 (Seg5) での販売が大幅に伸張、また全体でも7%増加と堅調。

プリンタ事業

カラー・モノクロ共に市場設置台数の拡大により消耗品ビジネスが今年度より収益に大きく貢献。

注力分野の売上数量



事業概況(オプト)

事業概況

光ピックアップレンズ、DSCレンズが2Qで生産調整の為伸び悩んだが、液晶用フィルムの伸張により増収増益。

光ピックアップレンズ

顧客が在庫調整の局面を迎え、2Qでは対前年数量を下回る。

DSC/VCR用レンズユニット

VCR用途の減少に加えDSC向けも2Qで対前年を下回った。

携帯電話向けレンズユニット/カメラユニット

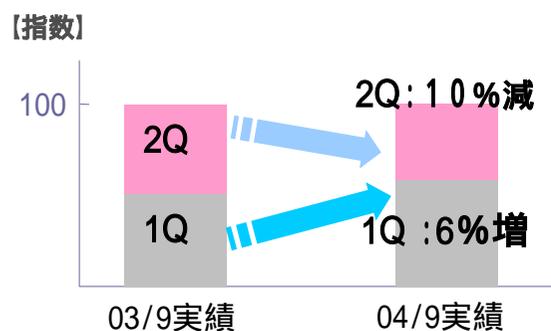
前年比数量減ながら、製品の高機能化に伴い売上は大幅伸張。

液晶用フィルム

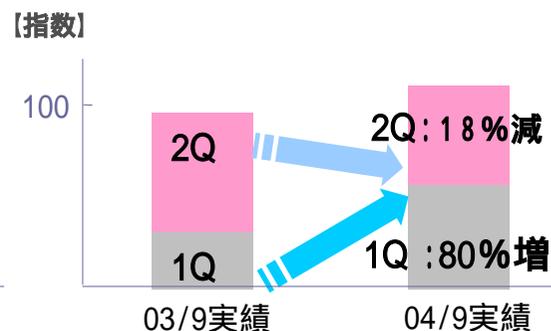
通常品/高機能品共に大幅伸張、事業収益に大きく貢献

注力分野の売上数量

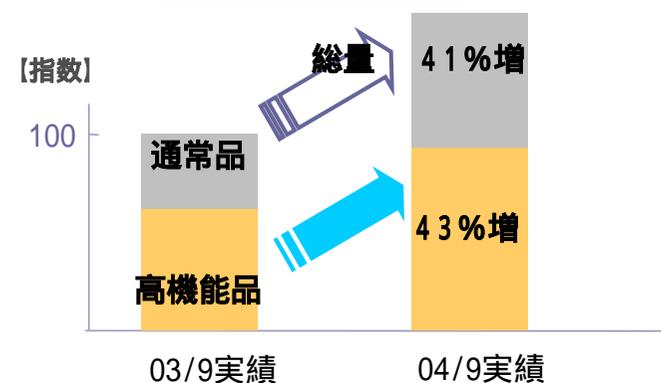
光ピックアップレンズ



DSC用レンズユニット



液晶用フィルム



事業概況(フォトイメージング)

事業概況

フォト事業は厳しい市況の中で堅調に推移するも、DSCの急激な価格下落により損益が悪化。

フォト事業

フィルムは総需要が引き続き減少する中、ロシア・アジア・中東地域での善戦やプライベートブランド品の健闘により数量は対前年 9%に収まる。

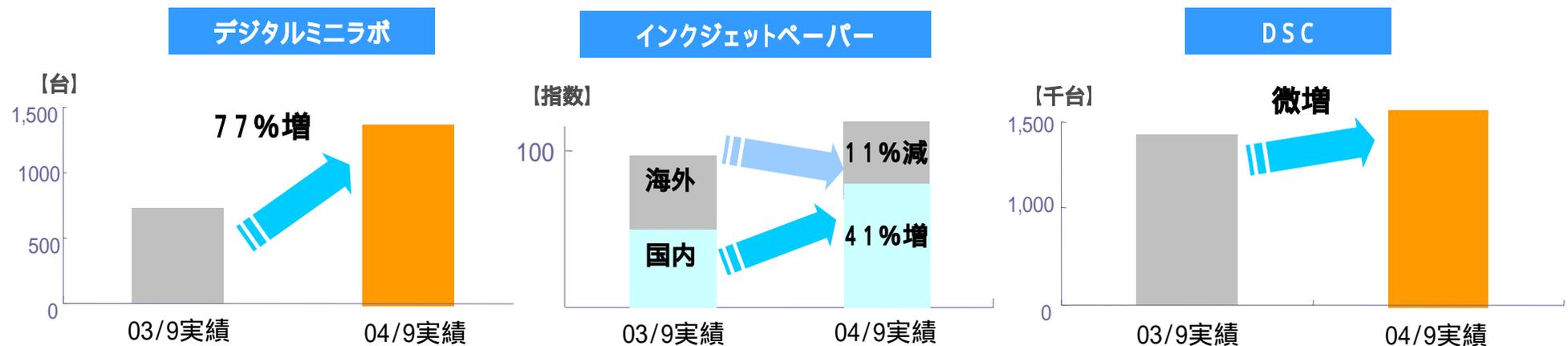
デジタルミニラボ「R2 SUPER」が販売好調、それに伴いペーパー販売量も前年を上回る。

インクジェットペーパーは国内向けが対前年大きく伸張するも、海外は価格競争が激化し前年を下回る。

カメラ事業

DSCは収益重視の事業方針に転換するも、価格下落や旧製品の在庫処理により収益が悪化。

注力分野の売上数量



事業概況(メディカル&グラフィック、計測)

事業概況

メディカル&グラフィック事業

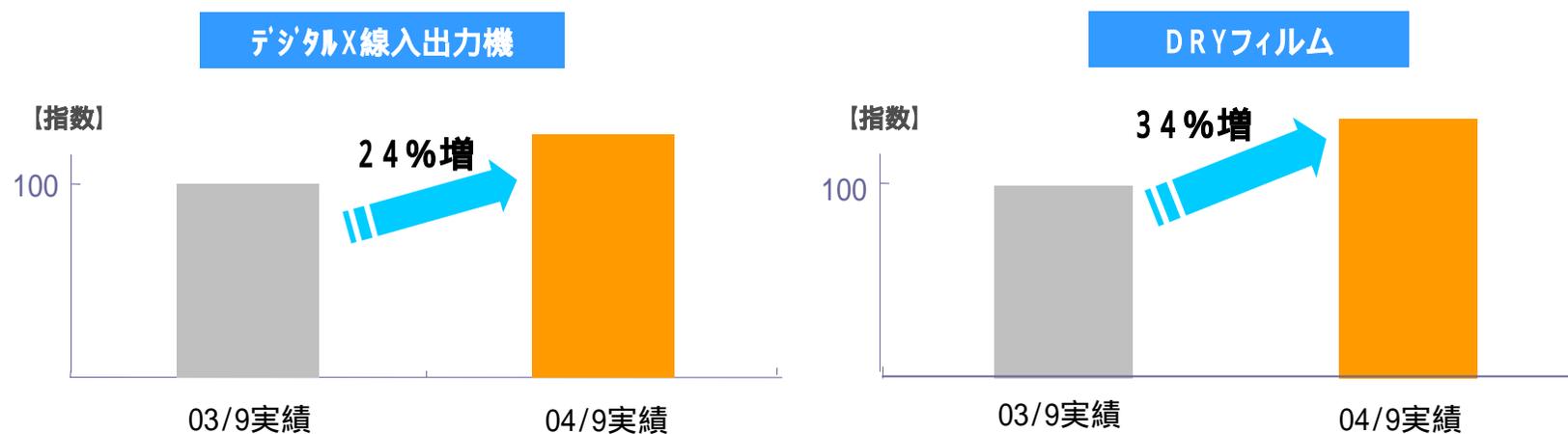
医療分野はデジタルX線入出力機器及びドライフィルムの販売が好調に推移。

印刷分野は国内フィルムの需要減少に対応し、プルーフやCTPへと事業を転換中。

計測機器事業

フラットパネルディスプレイ業界向けの色計測機器の販売が好調に推移。

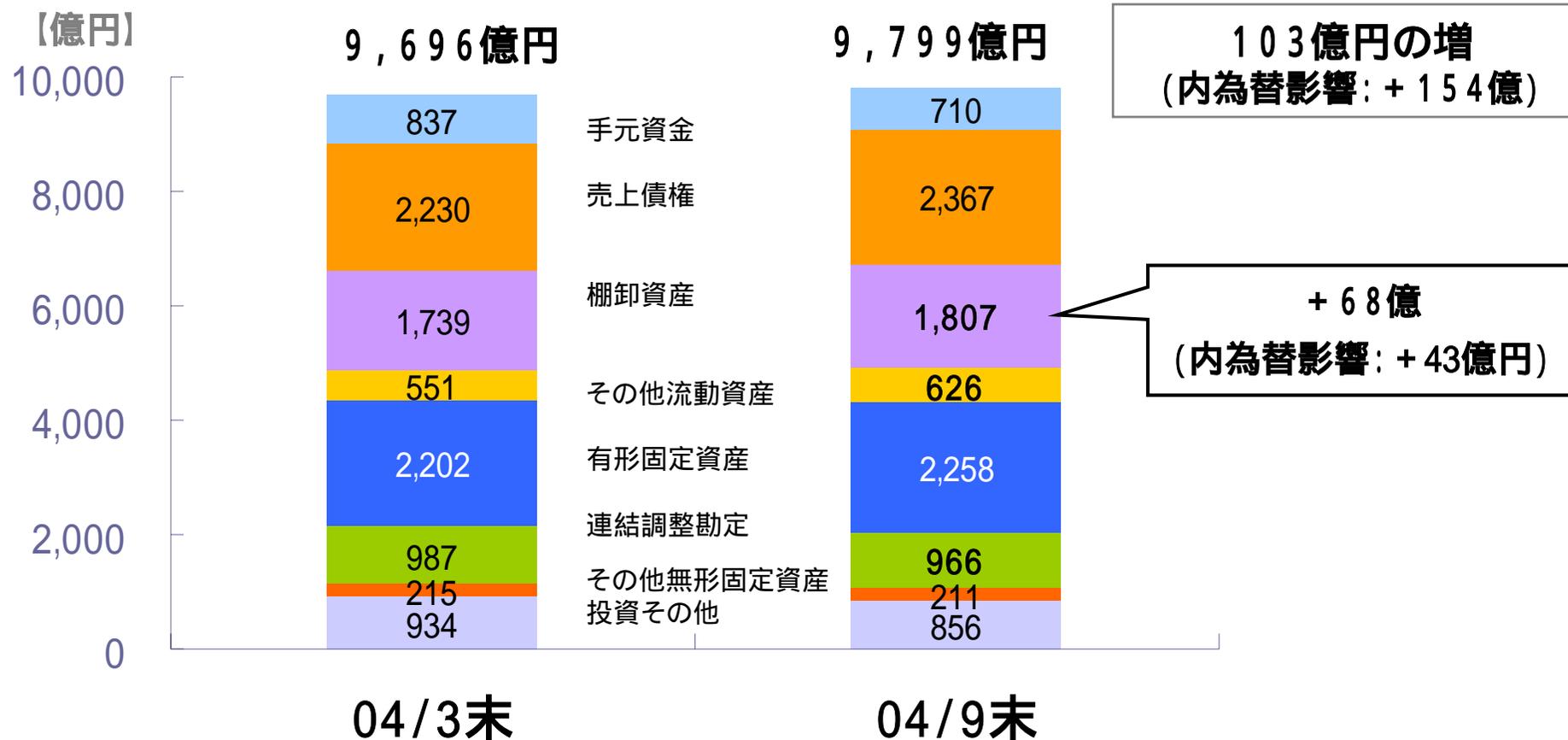
注力分野の売上数量



決算概要 - 連結BS (資産)

連結総資産対比 04 / 3末 vs 04 / 9末

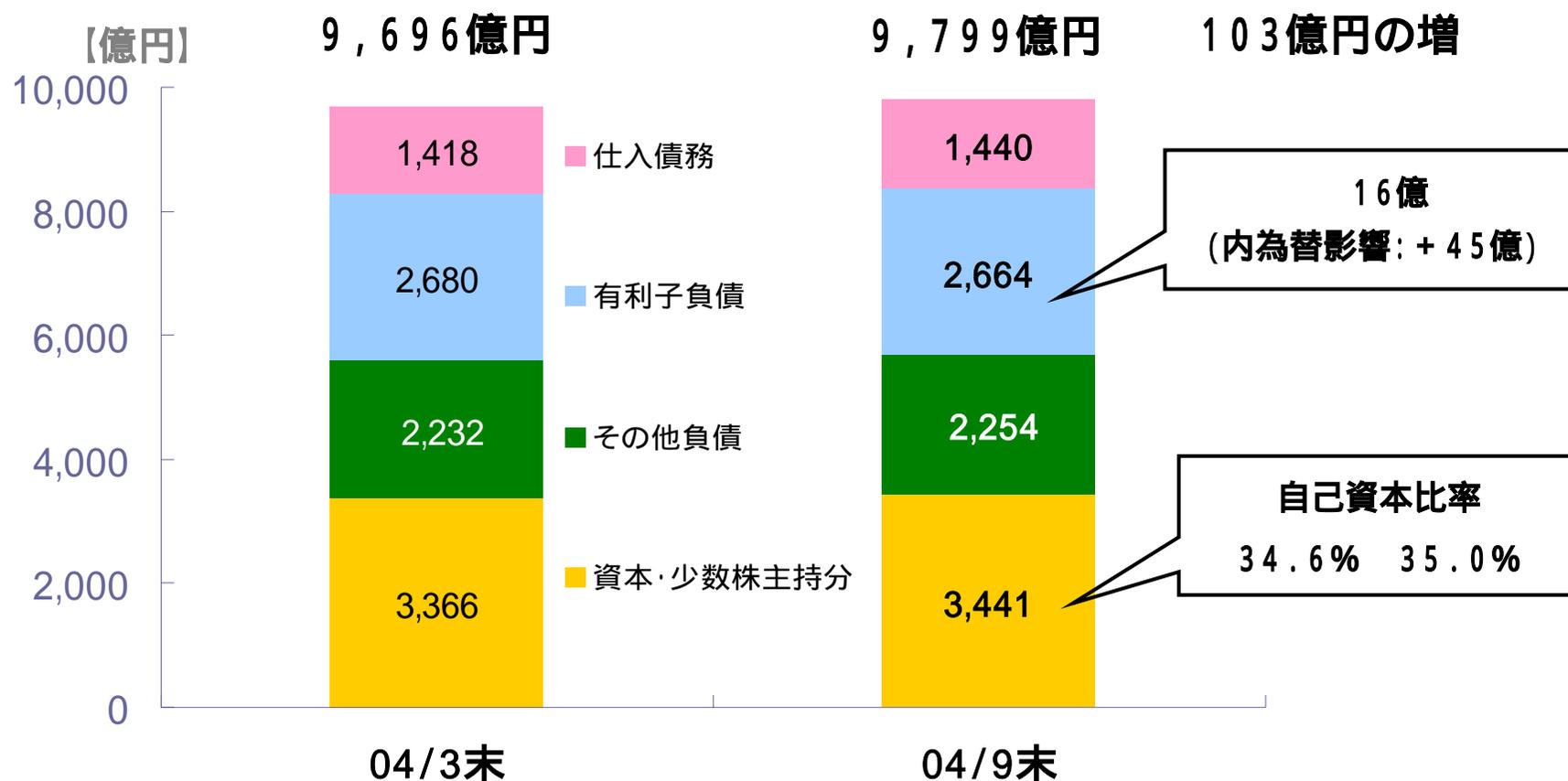
B/Sレ-ト	04/3末	04/9末	増減
\$	105.69	111.05	5.36 (円安)
1-0	128.88	137.04	8.16 (円安)



決算概要 - 連結BS (負債・資本)

連結負債・資本対比 04 / 3末 vs 04 / 9末

B/S項目	04/3末	04/9末	増減
\$	105.69	111.05	5.36 (円安)
円	128.88	137.04	8.16 (円安)



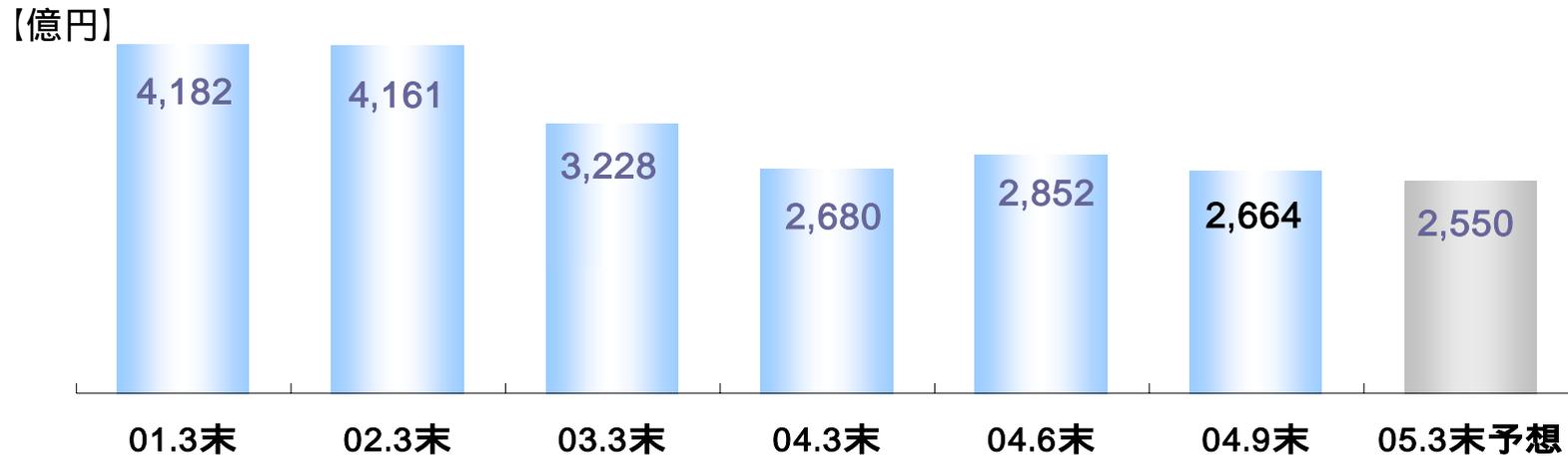
連結キャッシュフロー



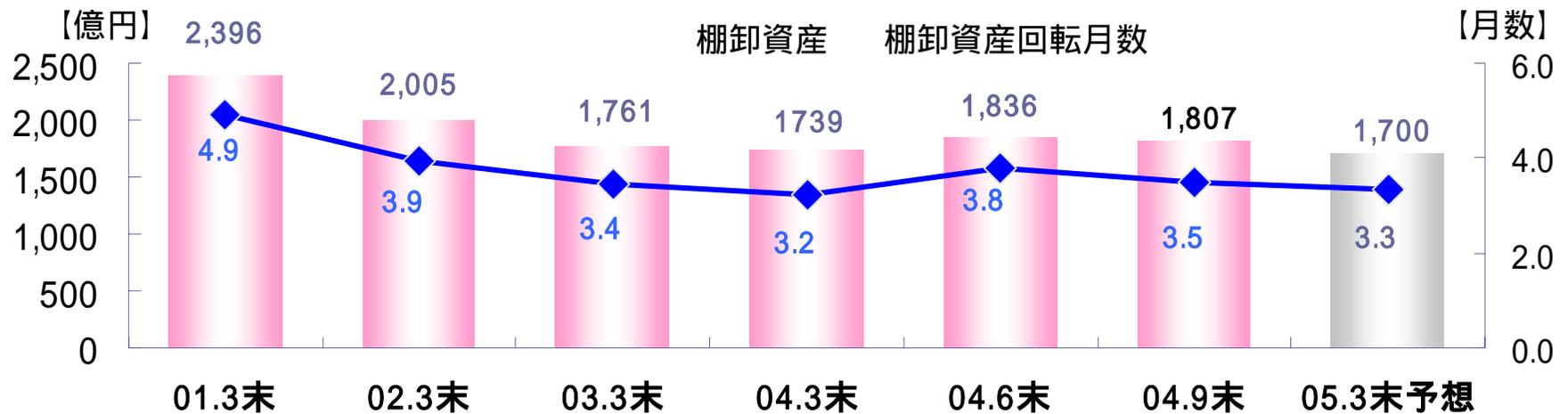
	04/9	03/9	【億円】 増減
税金等調整前当期純利益	232	249	17
減価償却費	252	249	3
運転資本増減他	259	114	145
営業活動によるCF	225	383	158
投資活動によるCF	273	119	154
+ FCF	48	264	312
借入金・社債の増減	65	186	120
配当金の支払額	27	26	0
その他	1	17	16
財務活動によるCF	93	229	136

有利子負債・棚卸資産

有利子負債残高の推移



棚卸資産及び棚卸資産回転月数の推移



棚卸資産回転月数 = 合算棚卸資産の期首・期末平均 ÷ (1ヶ月平均売上原価)

統合の進捗

連結人員の推移

		(統集中計公表値)			
02/9 末実績	03/9末	04/3末	04/9 末	05/3末	06/3末
37,300	35,400	35,200		33,600	32,600
計画	1,900	2,100		3,700	4,700
実績	35,391	34,710	34,033		
	1,909	2,590	3,267		

6割弱が国内人員

情報機器部門での統合状況

ITシステムの統合： 国内 / 欧州販社： 04年10月迄に統合完了済み。
 アメリカ販社： 会計・物流など基幹系は04年6月に統合完了。
 中央倉庫の集約： 販社中央倉庫の集約は04年上期に完了。

統合費用

	上期 実績	下期 予想	通期 予想
販売管理費	21	17	38
営業外費用	2	0	2
特別損失	27	7	34
統合費用計	50	24	74

統合費用の用途

販売管理費： 拠点統廃合・IT・広告宣伝他
 営業外費用： パッケージ廃棄他
 特別損失： 人員合理化他

2004年度 通期業績予想



	05/3予想			04/3 実績	増減	【億円】
	上期 実績	下期 予想	通期 予想			前回予想 5月21日
売上高	5,351	5,649	11,000	11,236	236	11,500
営業利益	325	475	800	732	68	850
経常利益	282	418	700	525	175	700
当期純利益	82	168	250	193	57	300

為替レート	US \$	109.86	107.00	113.07	105.00
	円	133.32	130.00	132.61	127.00

参考情報

	上期実績	下期予想	通期予想
設備投資 (資本的支出)	268	362	630
減価償却費	252	328	580
試験研究費	323	387	710
FCF	48	198	150

2004年度通期業績予想 - セグメント別



売上高

	05/3予想			04/3 通期	増減	【億円】 前回予想
	上期実績	下期予想	通期予想			5月21日
情報機器	2,814	3,086	5,900	6,258	358	6,000
オプト	440	520	960	858	102	1,000
フォトイメージング	1,428	1,292	2,720	2,777	57	3,040
メディカル&グラフィック	609	691	1,300	1,209	91	1,350
計測	26	29	55	80	25	110
HD他	33	32	65	54	11	0
合計	5,351	5,649	11,000	11,236	236	11,500

営業利益

	05/3予想			04/3 通期	増減	【億円】 前回予想
	上期実績	下期予想	通期予想			5月21日
情報機器	267	363	630	629	1	600
オプト	72	93	165	153	12	185
フォトイメージング	40	15	55	66	11	0
メディカル&グラフィック	43	47	90	79	11	85
計測	9	11	20	18	2	20
HD他	26	24	50	80	30	40
合計	325	475	800	732	68	850

第二部

2005年3月期中間決算の総括

－ 情報機器・オプト・カメラの3事業に関して －

代表執行役社長 岩居文雄

04年度上期業績レビュー

セグメント別上期実績

情報機器は計画クリア、オプトはDVDピックアップ需要減で計画未達、フォトはDSC価格下落で損益悪化。

		04年度			04年度	
		1Q実績	2Q実績	上期実績	上期計画	差異
情報機器	売上高	1,370	1,444	2,814	2,850	36
	営業利益	149	118	267	240	27
	営業利益率	10.9%	8.2%	9.5%	8.4%	
オプト	売上高	223	217	440	450	10
	営業利益	39	33	72	85	13
	営業利益率	17.5%	15.2%	16.4%	18.9%	
フォト イメージング	売上高	719	709	1,428	1,500	72
	営業利益	20	20	40	15	25
	営業利益率	-2.8%	-2.8%	-2.8%	-1.0%	
メディカル グラフィック	売上高	281	328	609	650	41
	営業利益	12	31	43	35	8
	営業利益率	4.3%	9.5%	7.1%	5.4%	
計測	売上高	12	14	26	50	24
	営業利益	3	6	9	10	1
	営業利益率	25.0%	42.9%	34.6%	20.0%	
HD他	売上高	15	18	33	0	33
	営業利益	13	13	26	20	6
	営業利益率					
合計	売上高	2,620	2,731	5,351	5,500	149
	営業利益	170	155	325	335	10
	営業利益率	6.5%	5.7%	6.1%	6.1%	

情報機器事業－通期の見通し



事業別上期実績及び通期見通し

(単位:億円)

		04年度 上期実績	下期見通し	通期見通し	04年度 上期計画	差異	04年度 通期計画	差異
情報機器	売上高	2,814	3,086	5,900	2,850	36	6,000	100
	営業利益	267	363	630	240	27	600	30
	営業利益率	9.5%	11.8%	10.7%	8.4%		10.0%	
MFP	売上高	2,355	2,575	4,930				
	営業利益	230	330	560				
	営業利益率	9.8%	12.8%	11.4%				
プリンタ	売上高	459	511	970				
	営業利益	37	32	70				
	営業利益率	8.1%	6.3%	7.2%				

成果

- カラーMFP: 戦略商品「bizhub C350」販売好調。生産がバックオーダーで推移するも、2Q以降増産対応し通期では計画比20%増の見込み。(台数ベース)
- モノクロ高速MFP: Seg5は前年比倍増のチャレンジングな目標をほぼクリア。
- カラーLBP: 累積MIF拡大に伴い消耗品ビジネスからの収益寄与が本格化。

課題

- カラーMFP販売増に伴う生産量の確保。
- カラーLBPの市場競争激化。

情報機器事業－「ジャンルトップ」戦略の進捗状況



注力分野での市場シェア状況

		03年		04年1月-6月	
		シェア	順位	シェア	順位
カラーMFP	日本	2.0%	5位	3.3%	5位
	アメリカ	14.4%	4位	13.5%	3位
	ドイツ	22.4%	1位	18.5%	2位
モノクロMFP Seg5	日本	4.8%	4位	12.9%	3位
	アメリカ	7.9%	4位	9.1%	4位
	ドイツ	12.7%	3位	22.1%	1位
カラープリンタ	アメリカ	21.9%	2位	16.1%	2位
	西欧	30.8%	2位	34.2%	2位

× 未だ低位ながらシェア改善中。
2位(13.9%)とは僅差に迫る。
1位(19.2%)とは僅差。

シェア大幅アップ。トップ3入り。

シェア改善したが、トップ3に届かず。

シェア大幅アップ。トップ獲得。

競合の価格攻勢でややシェアダウン。

自社・OEM先とも堅調。シェア拡大。

- データの出所
MFP: データクエスト
プリンタ: IDC (OEM先販売分も含む)

情報機器事業－経営統合の進捗状況

ITシステム統合の状況

- 本社-販社間のSCM: 04年下期中に統合予定。
- 国内販社: 04年10月に統合完了
- アメリカ販社:
会計・物流など基幹系は04年6月に統合完了。
販売系は04年下期中に統合予定。
- 欧州販社
イギリス・イタリア: 04年上期中に統合完了。
ドイツ・フランス: 04年10月に統合完了。

人員削減の進捗状況

削減計画の約50%を達成。今後は直販拠点集約で更に推進。

	02年9月	03年9月	04年3月	04年9月
期末人員	21,500	20,790	20,523	20,096
削減累計	-	710	977	1,404

中央倉庫の集約

販社中央倉庫の集約は04年上期に完了。

	統合時 03年10月	04年9月	集約目標 05年3月
アメリカ	5	3	3
ドイツ	2	1	1
イギリス	2	1	1
フランス	2	1	1

直販拠点の再編

ITシステム統合に併せ04年下期より直販拠点の集約開始。

<集約目標>

- アメリカ販社: 90拠点 60拠点
- 欧州販社
ドイツ: 27拠点 19拠点
イギリス: 25拠点 17拠点
フランス: 36拠点 27拠点

情報機器事業－売上拡大に向けた重点取組み

商品政策

注力分野中心に新製品を積極投入。

- カラーMFP : オフィス向けカラー機の強化。
05年に「bizhub」シリーズカラーMFPのラインアップ拡充。
- モノクロ高速MFP: Seg 6機(毎分105枚)を11月から販売開始。
- カラープリンタ : 低速機から高速機へ製品ラインアップの拡充・強化。
A4高速機(毎分21枚)を9月から販売開始。
A4低速機(毎分5枚)を12月から販売予定。



デジタル高速MFP「bizhub pro1050」
モノクロ出力:105枚/分

生産拠点政策

更なるコスト競争力強化を目的に重点分野に積極投資。

- 重合法トナーの第3プラント建設 : 05年下期稼動予定(重合法トナー総生産量8,000トン/年)

販売チャネル政策

カラー/PODの直販体制強化。欧米直販拠点の再編を04年下期より開始。

オプト事業ー通期の見通し

上期実績及び通期見通し

(単位: 億円)

		04年度 上期実績	下期見通し	通期見通し	04年度 上期計画	差異	04年度 通期計画	差異
オプト	売上高	440	520	960	450	10	1,000	40
	営業利益	72	93	165	85	13	185	20
	営業利益率	16.4%	17.9%	17.2%	18.9%		18.5%	

成果

- 液晶用フィルム:
標準品/高機能品とも販売が好調に推移。
上期計画比12%増、通期では16%増を見込む。
(共に数量ベース)

課題

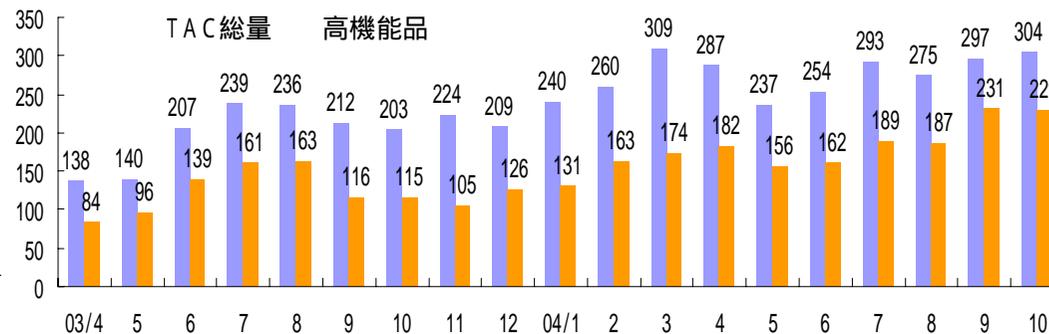
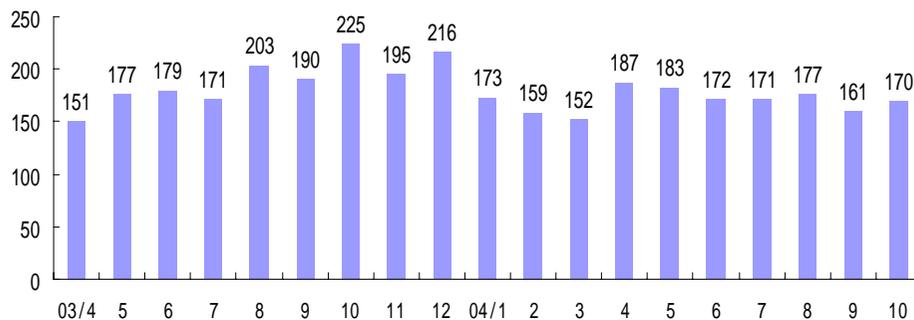
- 光ピックアップレンズ:
DVD向け中心に調整局面に入り、上期計画未達。
市況を鑑み、通期数量目標を10%下方修正するが、
収益確保の施策を展開。
- DSC/VCR用レンズユニット:
DSC用は2Qで減速、VCR用も市場低迷し上期計画
未達。通期数量目標を10%下方修正。
- 携帯電話向けマイクロレンズ/カメラ:
国内市場: 上期は機種種の端境期で国内市場ダブつき
感あるが、下期は新製品で回復期待。
海外市場: 当初見込みより立上り遅れる見通し。

オプト事業-主力商品の販売状況

光ピックアップレンズの販売推移

液晶用フィルムの販売推移

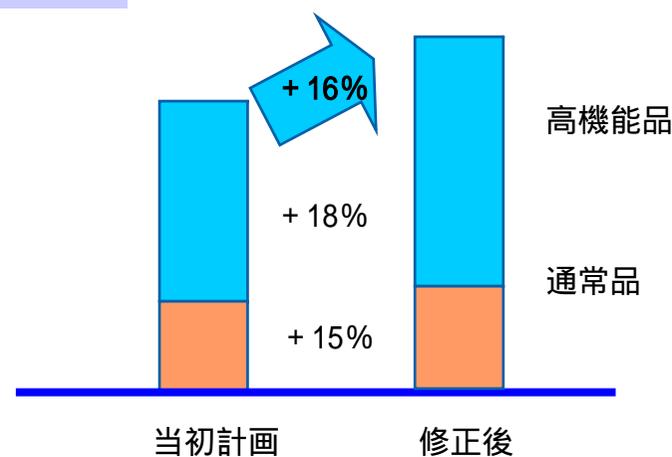
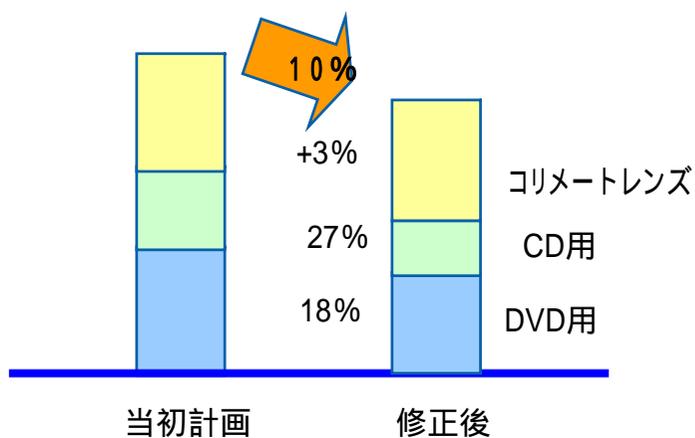
共に2000年4月を100とした場合の指数



7月以降DVD向けの市況が調整期に入る

付加価値品を中心に2Qも好調に推移

参考) 04年度通期 製品別販売数量修正 (数量ベース)



オプト事業ー収益拡大に向けた重点取組み



主要ビジネスユニットの事業方針

- **光ピックアップレンズ** : 次世代DVD(ブルー/HD-DVD)への技術対応は既に完了。
現行製品については更なるコストダウンを徹底。
- **液晶用フィルム** : 第3プラント(05年10月稼動予定)により増産体制(50%増)
高機能品で更なる販売拡大を狙う。
- **携帯電話用レンズユニット/カメラユニット** :
日本メーカー中心に高画素・高機能(AF、ズーム)対応で差別化。
海外メーカーへのアプローチを強化。
- **DSC/VCRLensユニット** : 高画素/高倍率ズーム/高機能で差別化を強化。
国内外セットメーカーに向けて新製品を順次展開。
- **ガラスHD基板** : 現行品2.5インチ/1.8インチに加え、小径化にもチャレンジ。
自社材料の構成比拡大に伴い収益性改善を図る。

フォトイメージング事業－通期の見通し

事業別上期実績及び通期見通し

(単位:億円)

		04年度 上期実績	下期見通し	通期見通し	04年度 上期計画	差異	04年度 通期計画	差異
フォトイメージング	売上高	1,428	1,292	2,720	1,500	72	3,040	320
	営業利益	40	15	55	15	25	0	55
	営業利益率	-2.8%	-1.2%	2.0%	-1.0%		0.0%	
フォト	売上高	805	765	1,570	800	5	1,600	30
	営業利益	11	0	11	15	4	20	9
	営業利益率	1.4%		0.7%	1.9%		1.3%	
カメラ	売上高	623	527	1,150	700	77	1,440	290
	営業利益	51	15	66	30	21	20	46
	営業利益率	-8.2%	-2.8%	-5.7%	-4.3%		-1.4%	

損益悪化に対するマネジメントの考え方

- フォト事業：主力のカラーフィルムは、合理化・効率化で需要縮小に対応しながら、ソフトランディングを図る。
- カメラ事業：グループ経営上の最優先課題として、04年下期より抜本的な事業構造改革をスタート。規模拡大よりも収益重視の体質への転換を早急に図る。

フォトイメージング事業－当期の成果と課題

フォト事業

成果

- カラーフィルム：アジア・中東向けやプライベートブランドの販売で総需要減少の影響を緩和。
- ミニラボ：新製品『R2super』がラインアップに加わり海外市場中心に販売好調、事業収益に貢献。(計画比20%増、台数ベース)
- ペーパー：アジア等海外市場を中心に販売維持しほぼ計画達成。

課題

- カラーフィルム：先進地域(特に欧州)での需要縮小による収益圧迫が更に進行。
- ラボ事業：国内プリント減少により収益改善が進まず。付加価値デジタルプリント路線への更なる変革が急務。
- インクジェットペーパー：国内向けは好調に推移し計画達成するが、海外向けは価格下落の加速により伸び悩み、トータルでは計画未達。海外販売チャンネルを強化中。

カメラ事業

成果

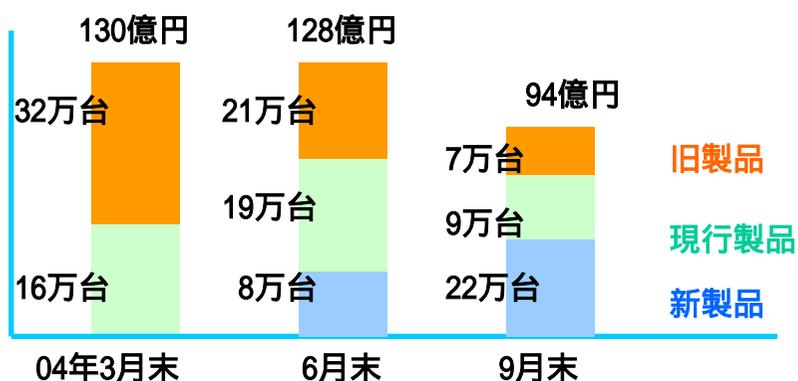
- DSC：市中在庫が急増する悪環境下、当社は旧製品・現行製品の在庫処理を積極推進し、上期で目標在庫レベルに削減達成。下期は、構造改革、デジタル一眼レフ投入により収益性改善を図る。

課題

- DSC：市場価格の下落ピッチ厳しく、旧製品・現行製品の売切りに伴い想定以上に損失が拡大。

カメラ事業-DSC上期販売状況

DSCの在庫削減は進む



方針転換後の新製品は手堅く推移

		上期 販売実績	売上高	粗利減少 対計画
旧製品	03年からの製品	53万台	110億円	17億円
現行製品	04年期初からの製品	59万台	140億円	23億円
新製品	04年夏発売の製品	47万台	150億円	0
合計		159万台	400億円	40億円

参考 店頭価格推移及び新製品転換の一例 (欧州市場)



カメラ事業－収益改善に向けた重点取組み

商品政策

当社の優位技術による差別化を徹底した商品作り
(光学技術、手ブレ補正機構、画像処理)

ハイエンド機中心に商品ラインを絞り込み粗利率改善。

- DSCコンパクト: 3.5メガ、10倍 12倍ズーム、のスペックアップに加え当社独自の手ブレ補正機構を搭載し、店頭価格を引き上げ。
- DSC一眼レフ: 独自開発の手ブレ補正機構をボディ側に搭載。店頭価格20万円前後のハイエンド市場に参入。



デジタル一眼レフ 『7 digital』
04年11月発売

事業構造改革

05年度ブレイクイーブン必達を目指し固定費・変動費を大幅圧縮。

- カメラ人員のグループ内再配置
対象: 国内の開発・生産・販売・間接を40%削減
効果: 約5億円/04年下期、約20億円/05年度
- 海外販社の合理化(フォト含む)
効果: 約9億円/04年下期、約17億円/05年度
- 生産・調達追加コストダウン
効果: 約5億円/04年下期
- 海外生産における固定費の大幅圧縮
目標: 約15億円/年間
(05年度実施予定)

04年度通期(下期)業績予想

セグメント別通期(下期)業績見通し(対計画比)

フォトの損益悪化分を情報機器で補完しきれず通期業績を見直し。

(単位:億円)		04年度 上期実績	下期見通し	通期見通し	04年度 当初計画	差異
情報機器	売上高	2,814	3,086	5,900	6,000	100
	営業利益	267	363	630	600	30
	営業利益率	9.5%	11.8%	10.7%	10.0%	
オプト	売上高	440	520	960	1,000	40
	営業利益	72	93	165	185	20
	営業利益率	16.4%	17.9%	17.2%	18.5%	
フォト イメージング	売上高	1,428	1,292	2,720	3,040	320
	営業利益	40	15	55	0	55
	営業利益率	-2.8%	-1.2%	-2.0%	0.0%	
メディカル グラフィック	売上高	609	691	1,300	1,350	50
	営業利益	43	47	90	85	5
	営業利益率	7.1%	6.8%	6.9%	6.3%	
計測	売上高	26	29	55	110	55
	営業利益	9	11	20	20	0
	営業利益率	34.6%	37.9%	36.4%	18.2%	
H D 他	売上高	33	32	65	0	65
	営業利益	26	24	50	40	10
	営業利益率					
合計	売上高	5,351	5,649	11,000	11,500	500
	営業利益	325	475	800	850	50
	営業利益率	6.1%	8.4%	7.3%	7.4%	

中期計画05年度営業利益目標について

04年度800億円 05年度1,450億円(650億円増)の道筋

(単位:億円)	情報機器	オプト	フォト イメージング	メディカル グラフィック+計測	HD他	合計
統合合理化効果 (人員・購買・拠点)	150	0	13	0	27	190
利益改善 (含むシナジー)	30	45	152	30	63	320
売上増に伴う利益増	90	40	0	10	0	140
為替影響	0	0	0	0	0	0
合計	270	85	165	40	90	650
04年度 営業利益見通し	630	165	55	110	50	800
05年度 営業利益目標	900	250	110	150	40	1,450

目標達成に向けて事業構造改革の諸施策を展開中

達成レンジ内の分野

- 情報機器/オプト事業:
積極的に経営資源を投入し、更なる収益拡大を図る。
- 合理化効果:
人員削減や拠点の統廃合等、順調に進捗。

目標達成のための課題

- フォトイメージング事業:
事業構造改革による利益改善がどの程度まで具現化できるか。
- HD他:
事業会社間をまたがる共同購買などのコストダウン効果がどれだけ具現化できるか。

“The essentials of imaging”